





## 「学校めぐり」（その三）

東栄町立小林小学校

山水清き小林の

西園寺公輔の著書

西に響く大鈴の  
太古の響き

昭和の御代に輝けり

春満開の、小林小学校のしだれ

この学校へ学び立  
つた誰もが等しく親しみ、また  
懐かしむのは校門のしだれ桜であ  
る。郷土を離れた同胞の春の便り  
にこのしだれ桜が一層愛郷心を募  
らせるようだ。秋は紅に映ゆる大  
鈴山にまた愛着を覚えるのも、こ  
のふるさと小林に生を受け、この  
だ人達の共通のシンボルとなつて

かも振草川の最上流に位置し、西方の設楽町界には標高一、〇一一米の太古森わらぬ夫鉢山が聳えてゐる。部落は県道八橋中設楽線を中心にして、これが同じく小林田口線のバス路線となり、日に豊鉄バスが本郷方面と田口方面にそぞれ三往復し交通の便を計つてゐる。そしてこの学校は小林停留所より少し登った所に建てられ、校舎は四七三平方米（一四三坪）運動場は一、一三〇平方米（三七

A large black rectangular redaction box covers the majority of the page content, obscuring the text from approximately the middle of the first column to the bottom of the page.

(大、三、三、四制) 実施にもとづいてせつかくの高等科もたつた一年の夢と終つた。この学校もやはり時代の流れと共に幾多の変遷を経つても耐えしのび、皆んなの学校として区民に親しまれ、愛され、教育の場として、集合の場として、また娯楽の場として欠くべからざる存在になつてきないのである。昭和二十九年九月から週三回の完全合宿がおこなわれ、まことにます量以上に喜ぶのは先づ今日の進んだ教材に学ぶ児童の幸を想像し、ほのぼのとした感じで包まれた。この学校の特色とか、教育のことについては、本紙で先に紹介した東蘭目、西蘭目の小学校と相互通じたものがあるうえは昨年は町内小学校のソフト、テニスの指導会にはそれぞれ準備勝していくのである。こうしたことになります量以上に喜ぶのは先づ

今様令十五年、まわり一五年のこの大變の際に昭和十九年三月、二宮尊徳先生の石像が建立され、児童の勉励に一助をなしている。山のまた山とは言え、静かで美しい自然の環境に恵まれ、校長藤原先生初め、四人の先生と一緒に給食場に、現在五十六名の児童が毎日楽しく健やかに、そして家庭的な雰囲気の中で熱心に教えて受けているのである。

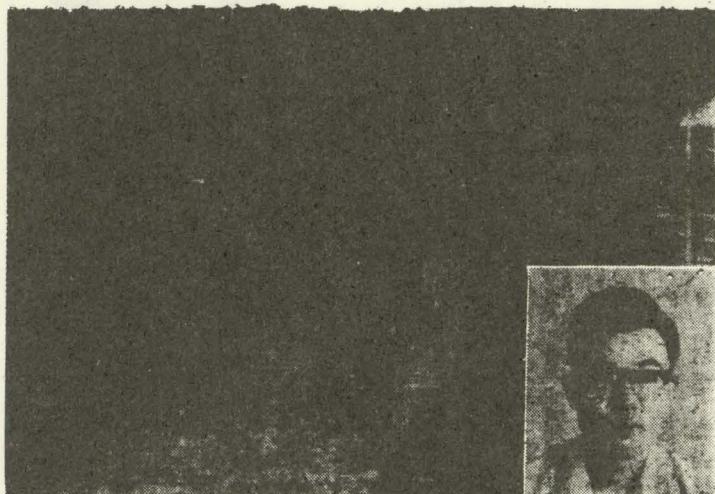
一坪)の広さである。  
さて、校史を尋ねると、明治六年十一月、大字振草の内古戸を除いた小林、上粟代、下粟代の三区が粟代で小学校を設立したと言う。そして明治十五年八月、小林は独立して校舎を東光寺に当て、四年生までの学級で授業したといふことである。ところが明治二十年五月、如何なる理由にてか再び粟代小学校と合併したといふのである。しかし五年後の明治二十五年四月粟代小学校小林分校となる。そし

至つてゐるのである。時に児童は二十八名で現在のちようん半数であり、教科書は修身、国語、算術体操の四科目であつた。しかし明治四十一年四月には裁縫科も新設されてゐる。また当時の校舎は七・一米（四間）と、一〇・九米（六間）の一階立であつて、しかも「いろり」があり、これを一、二年生の教室に当て、冬季はこの「いろり」を囲んで和氣藹々として勉強したと言われる。また一階は三、四年の教室に当てここで新月、工事費三千円で校舎を新築し、運動会は田園で行つたそうである。もちろん場所も現在の所でなくて向山にあり、最近までその一部校舎が当時の面影を残していた。ところがその翌年の明治四十二年四月には学級制度の改革があり六年生には学級制が敷かれ、更に補修科も置かれ、児童数六十大名となりしばらく苦難な時期があつたよう伺える。

だが小林小学校も大正四年十一月、工事費三千円で校舎を新築し、

三十三年六月にはテレビも新設され、更に昭和三十四年には教員住宅も新築され逐年学校の諸施設も完備して来ている。さて、山水園とか名づけられた自慢の小鳥園には、十姉妹、インコ、キンカ鳥、キンバラ、伝書鳩のほか、の中に池も作つて鯉に金魚に龜もまた三四匹もいる。教頭の伊藤謙先生にお尋ねするとこれは先生と生徒の協力で作り上げたそうである。なるほどなかなか立生る父兄であるが、なにより生徒自身にスポーツ面のみならずこれが学習面にも等しく大きな自信を持つことにもなり、小さな學校という自負感もなくなるのである。ここで同じ立場にある学校の児童生徒に望みたいのは小学生であつてもやはり「負けない」という意気とフットワークである。

最後に小林小学校の弥栄と多幸をお祈りし、誠に要領を得ない訪問記をお詫びして筆を止めさせていただきます。



小林小学校と萬原實校長先生

現在の基礎をなしたのであるがそれから今日まで四十八年の歳月が流れているのである。また時の校長先生が現在本郷にて健在で見える伊藤重治先生であられたと言う。昭和六年には児童数八十三名といふにいたかつてない最高数に達している。昭和二十一年四月には高等科が設置されたが、翌年の昭和二十二年四月には新教育制度（大、三、三、四制）実施にともづいてせつかくの高等科もたつた一年の夢と終つた。この学校もやはり時代の流れと共に幾多の変遷を経つも耐えしのび、皆んなの学校として区民に親しまれ、愛され、教育の場として、集合の場として、また娯楽の場として欠くべからざる存在になつてきたのである。昭和二十九年九月から週三回の完全給食が始まられ、また昭和三十三年六月にはテレビも新設され、更に昭和三十四年には教員住宅も新築され逐年学校の諸施設も完備して来ている。

さて、山水園とか名づけられた自慢の小鳥園には、十姉妹、インゴ、キンカ鳥、キンバラ、伝書鳩のほか、この中に池も作つて鯉の金魚に龜もまた三匹もいる。教頭は先生と生徒の協力で作り上げたそうである。なるほどなかなか立派なものである。ふと思ひを転じて見ればこの学校の校訓「進んで見なよ」にはみんながよく「また、三年四年の級訓には「協力」とあるから違足も運動会など、学校行事の幻燈スライドを見せていただきを想像し、ほのぼのとした感じに包まれた。この学校の特色とか、教育のことについては、本紙で先に紹介した東薦目、西薦目の小学校と相互通したものがあつたと思われる所以略する。そういうことは昨年は町内小学校のソフト、テニスの指導会にはそれを準備勝しているそ�である。こうしたことになります児童以上に喜ぶのは先生や父兄であるが、なにより生徒自身にスポーツ面のみならずこれが学習面にも等しく大きな自信を持つことになり、小さな学校といふ自負の劣等感もなくなるのである。ここで同じ立場にある学校の児童生徒に望みたいのは小学生であつてもやはり「負けない」という意氣と「アイトである。

最後に小林小学校の弥栄と多幸をお祈りし、誠に要領を得ない訪問記をお詫びして筆を止めさせていただきます。

議會報告

昭和三十六年十一月二十日東栄  
町議会定例会が開催された。

会議事件次のとおり

### 議案第八二号、議會議員の報酬

議案第八二号、議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一  
部を改正する条例について

を百分の百七十に勧奨手当百分の七十五を百分の九十五と改め  
る

### 議案第十六号 東栄町職員の給与に関する条例の一部を改正する

### 案例について

ペーセント増と改訂する

議案第六四号 愛知県町村聯盟  
退職手当給与組合の規約の一部変更

ハリヒアリ

更  
カノ田村の地力と授金率の変

議案第八五号、東栄町家畜管理所

一部を改正する条例について

注 種付料 犬牛一百円を

目より四百円に、和牛千百円を

第四回目より三百円に、纏山差

五百円を七百円に、この外管理  
所外授精料を一回限り一百円上

改正する。

説文第ノノ号 暦和三十九年  
東栄町一般会計才入才出追加更正

四百一十七万八千一百六十円の追加更正  
議案第八八号、昭和三十六年度  
宋町農業共済事業特別会計貸出追加更正  
院施設勘定オ入才出追加更正等  
、士万七千三百九十四円追加  
更正  
議案第八九号、昭和三十六年年度  
宋町立中央小学校特別会計オ入  
について  
、三百八十五万五千五百九十一  
円追加

才出追加更正予算について  
注、一百四十分二千円追加  
議案第九〇号、昭和三十六年度  
東采町国民健康保険特別会計事業費  
勘定才出入追加更正予算について  
て  
注、十二万四千三百七十四円追加  
議案第九一號、昭和三十六年度  
本郷財産区特別会計才出入追加更正予算について  
更正予算について  
注、八十九万五千五百六十円追加  
議案第九二號、寄附採納につ  
て  
注、古戸地内町道工事費附四件  
保育園施設充実資金三件、消  
火栓設置費二件

編集後記

内橋梁修繕費金一件、足跡地内  
道路災害復旧費金一件、計土  
件百三十六万七千五百九十六円  
議案第九三号、審附採納願につ  
いて

児童扶養手当法の  
上巻

## 手続きについてお知らせ

度	業	度	加	度	加	度	度
童	児	防	い	防	い	防	い
車扶養手当法の	手続きについてお知らせ	議案第九三号、審附採納願につ	て	万円を愛知県へ寄附	注	件百三十六万七千五百八十八円	内橋梁修繕資金一件、足込地内
三、児童または母、もしくは養育	きは支給しない。	明神おろしの寒風と共に年の瀬	器具、施設整備費一件、布川地	新らしい年に夢と希望をかけて、	よりよき年であれと祈るや切な		
者者が日本国内に住居を有しない	がやつてきた。	あわただしい年の瀬の中で一年	出来事が脳裏をかすめ、走馬燈の	ように過ぎ去つてゆく。	り……。		
とき。	を振り返つてみると、いろいろな	あわただしい年の瀬の中で一年	少の相違こそあれ、誰も同じで	去りゆく年を送り、やがて来る	り。		
五、児童の父に支給される公的年	町内の皆様方もご家内揃つてよ	あり年を迎えるよう、心と	あろうと存じます。	新らしい年に夢と希望をかけて、	よりよき年であれと祈るや切な		
金給付の額の加算の対象となる	東栄町報の後記といたします。	り祈念いたしまして、本年最後の	り……。	器具、施設整備費一件、布川地	出来事が脳裏をかすめ、走馬燈の		
とき。	×	年を迎えるよう、心と	あろうと存じます。	内橋梁修繕資金一件、足込地内	内橋梁修繕資金一件、足込地内		
六、児童扶養法に依	×	り祈念いたしまして、本年最後の	り……。	新らしい年に夢と希望をかけて、	よりよき年であれと祈るや切な		
る里親に委託され	×	年を迎えるよう、心と	あろうと存じます。	器具、施設整備費一件、布川地	出来事が脳裏をかすめ、走馬燈の		
ているとき。		り祈念いたしまして、本年最後の	り……。	内橋梁修繕資金一件、足込地内	内橋梁修繕資金一件、足込地内		

年末・年始の虚礼は  
廃止しましょう

---

「防火・防犯」  
備えあれば憂いなし